

令和2年度 学校評価(自己評価表) 米子北高等学校

建学の精神	基本的生活習慣(躰)の育成をとおして、人格陶冶をはかり、地域社会に貢献できる人材を養成する。	中長期目標	地域に貢献し、地域から応援してもらえる学校を目指す。
学校教育目標	【input】【thinking】【output】《reflection》4つの行動で、 ①対話力の向上を目指して社会で生きる力を身につける。 ②学習習慣の確立を目指して「学びに向かう力」を身につける。	今年度重点目標	1. 主体的、継続的に学びに向かう姿勢の定着 2. 基本的生活習慣と規範意識の確立 3. 安全・安心な学校生活空間 4. 地域に信頼される教育・地域の人が自慢できる学校づくり 5. 特色ある教育の推進

評価項目	関連分掌	評価の具体項目	現状	具体目標	具体方策	経過・達成状況	自己評価		関係者評価	評価に対するコメント・改善方策
							中間	最終		
1. 主体的、継続的に学びに向かう姿勢の定着	教務	アクティブラーニング等で授業改革	各教科においてICT活用、ALの視点を持って授業を組み立てることが行われているが、まだ、全体に浸透していない。	学びに向かう姿勢が定着し家庭学習時間の増加につなげる。	各教科で研究授業等の計画を実施してもらう。新学習指導要領をもとに授業改善を加速化させる。					
	進学	進路指導の充実	普通コースと進学・特進コースの実状にあわせた取り組みを段階的に計画している。	明確な志望動機を持たせ、進路実現のために自ら計画的に取り組むことができるようにする。	普通コースにおいては進路希望に応じて進学、就職セミナーを時間割に組み込み、2、3年を通して取り組ませていく。進学・特進コースでは、課外、特講などで学力向上をはかると共に、志望校設定を早期段階から継続的に取り組ませていく。					
	就職		就職に対する早期の意識づけを外部機関との連携を取って行い、最後まで粘り強く指導している。	明確な志望動機を持たせ、進路実現のために自ら計画的に取り組むことができるようにする。	就職セミナーにおいて、興味関心のある職種調べと自己の適性を知り、ミスマッチからくる早期離職をなくす。また、面接指導など実践的プログラムを実施する。					
	情報	学習の記録、振り返りの実施	学習記録、ポートフォリオの整理のためにBLENDを導入し、活用可能な設定を行っている。	BLEND活用の設定の対応に加え、定期的な利用実態を把握する。	学期毎に教員、生徒に対して利用アンケート調査して改善に努める。					
2. 基本的生活習慣と規範意識の確立	教務	健康に留意し、規則正しい生活の実行	特別な理由以外の欠席、欠時等の生徒は少ないが、遅刻の多い生徒は目立つ傾向にある。	出欠管理を適宜確認し、担任、教科担当の生徒指導の正確なデータを提示できる。	出欠状況の入力確認を定期的に行い、各担当に発信する。					
	生徒指導	校内外で社会的規範意識の確立	SNSでのトラブル、対人関係でのトラブルが多くを占めている。	生徒が主体的に考えて行動し、良い人間関係を築くことができるようになる。	年度初めの「ネットモラル教室」でネット犯罪被害防止やSNS上でのトラブル防止などについて、強く訴えかけていく。					
3. 安全・安心な学校生活空間	生徒支援	自尊感情の育成・他者理解	生活アンケートによる面談、教育相談から生徒の経過観察、働きかけを行っている。	自分も他人も大切に考え、安心できる学校生活を送ることができる。	生活アンケート内容の吟味、Hyper-QU実施と職員研修、関係委員会での迅速な対応を行う。人権啓発ポスターの作成、掲示を積極的に行う。					
	環境美化	環境教育の推進	教室の美化、ゴミの分別、校内外の美化活動を通して意識を高めている。	校内外で環境を意識し、物を大切に使うことや公共の場の美化に努める行動が無意識にとれるようになる。	ゴミの分別等にとどまらず、地球温暖化、レジ袋を減らす等、ポスターの作成などで啓発活動を行う。					
	事務	施設の整備・点検	巡回、定期点検を行い、危険場所を修繕するよう努めている。	学校施設等の利用において怪我・事故がないようにする。	巡回や教職員からの報告によって確認した機器の故障、危険場所は生徒等の安全確保を第一に、業者との連絡も迅速に行っていく。					
4. 地域に信頼される教育・地域の人が自慢できる学校づくり	総務	情報発信の強化・保護者との連携	振興会役員活動に協力いただき、取り組みの活性化を試みているが、参加者が少ない行事も多い。	活動参加のみならず、本校教育に理解いただき、協力体制を強化する。	BLENDやマチコメールを利用し積極的な情報発信を行う。また、魅力あるホームページとなる様に工夫する。					
	生徒会	地域との連携活動	校外美化活動、部活動単位での地域活動の参加や交流が行われている。	地域からの活動依頼に積極的に対応すると共に、本校発案の活動に取り組んでいく。	地域における校外美化活動を生徒会主催や部活動の一貫として積極的に行っていく。					
	生徒指導	あいさつの励行と責任ある行動の実行	あいさつと、交通マナーを目的とした門前活動は保護者、生徒会、地域の方と協力して行っている。	交通マナーのしっかり守り、事故を防ぎ、地域の児童や人々とあいさつを交わしていくことができる。	毎朝、教員が門前指導において、あいさつ運動、服装や交通マナーの指導を含めて行っていく。また、マナーアップさわやか運動では、生徒会と地域の方々、保護者と協力してあいさつを交わしていく。					
5. 特色ある教育の推進	看護	医療・福祉機関との連携	看護教育の一環として、福祉施設、病院等での実習をさせていただき、高い評価をいただいている。	周囲に感謝し、より一層責任ある行動がとれるように自己を磨く。	教員、生徒共に感染予防対策を十分に行い、臨地実習が行えるように施設と連携を図る。また、個人情報の保護に努める指導を徹底する。					
	探究学習	地域連携・地域課題への取り組み	昨年度、米子市長に参加していただき、発表を行ったが、単発的であった。	自ら地域における課題を発見し、問題解決を目標に思考して発信していく取り組みが行われる。	課題を見つけ出す力を養成するためのヒントを示し、発見につなげていく機会を増やしていく。					
	コース制	地域社会に求められるコースの特色	普通科の特色が求められているなか、コースの再検討を行っている。	新学習指導要領のもと、コースの特色を活かしたカリキュラムマネジメントが行われている。	教育改革プログラム委員会を設置し、各コースの教育力向上の方策を検討していく。					

評価基準 A:十分に達成している B:概ね達成している C:取り組みはやや遅れている、または、成果は十分には出ていない D:より一層のまたは新たな方策が必要である